

使徒の働き

一神の国の広がり一

こうして、教会は
ユダヤ、ガリラヤ、サマリアの全地にわたり
築き上げられて平安を得た。
主を恐れ、聖霊に励まされて前進し続け、
信者の数が増えていった。

使徒の働き 9章 31節



目次

さあ始めましょう —手引の使い方—	1
グループ聖研の場合の指針	1
はじめに	3
「神の国の福音」—「使徒の働き」を読む前に	4
1 課 イエスの証人となる備え 1:1-26	6
A 「使徒の働き」の著者 1:1-2	6
B イエスの復活から昇天まで 1:3-11	6
C 祈りとマッティアの選び 1:12-26	8
2 課 聖霊降臨とペテロの第一の宣教 2:1-36	10
A 聖霊が注がれる 2:1-13	10
B ペテロの第一の宣教 (I)—終わりの日とメシアの到来 2:14-22	11
C ペテロの第一の宣教 (II)—メシアの復活・昇天・統御 2:23-36	13
3 課 教会の誕生 2:37-47	16
A 三千人の回心 2:37-42	16
B 信者の生活 2:43-47	16
4 課 神殿での癒やしとペテロの第二の宣教 3:1-4:4	19
A 神殿での癒やし 3:1-11	19
B ペテロの第二の宣教 (I)—復活したイエスによる癒やし 3:12-16	19
C ペテロの第二の宣教 (II)—イエスの受難と万物の刷新 3:17-21	20
D ペテロの第二の宣教 (III)—世界を祝福する民となる 3:22-4:4	22
5 課 圧迫の中で成長する教会 4:5-6:7	24
A 神に従い、祈り、語る人々 4:5-31	24
B 信者の中の分かち合いと欺き 4:32-5:11	27
C 拡大する神の国 5:12-42	29
D 教会の組織化と問題 6:1-7	32

表紙イメージ:

マゾリーノ・ダ・パニカーレ『説教するペテロ』〈部分〉 1425年頃 フレスコ
サンタ・マリア・デル・カルミネ聖堂 プランカッチ礼拝堂 (フィレンツェ)

6 課 ステパノの働き 6:8-8:3	34
A ステパノに対する策略 6:8-15	34
B ステパノの説教 7:1-53	34
C ステパノの殉教 7:54-60	37
D エルサレム教会への迫害 8:1-3	37
7 課 ピリポの働き 8:4-40	39
A サマリアでの働き 8:4-25	39
B エチオピア人の高官を導く 8:26-40	42
8 課 サウロの回心と働き 9:1-30	44
A サウロの回心 9:1-19	44
B サウロの働き 9:19-25	45
C サウロ、エルサレムへ 9:26-30	45
9 課 ユダヤからサマリアまでの教会の広がり 9:31	47
10 課 ペテロの働き 9:32-10:48	48
A アイネアとタビタの癒やし 9:32-43	48
B 異邦人コルネリウスの回心 10:1-11:18	50
11 課 アンティオキア教会 11:19-30	53
12 課 ペテロとヘロデ王 12:1-24	55
A ヤコブの死とペテロの逮捕 12:1-5	55
B ペテロの救出 12:6-19	56
C ヘロデの死 12:20-24	56
13 課 パウロの第一回宣教旅行 12:25-14:28	58
A アンティオキア教会による派遣 12:25-13:3	58
B キプロスでの働き 13:4-12	58
C ピシディアのアンティオキアでの働き (I) 13:13-43	60
D ピシディアのアンティオキアでの働き (II) 13:44-52	63
E イコニオンでの働き 14:1-7	63
F リステラでの働き 14:8-20	65
G デルベでの働きとアンティオキアへの帰還 14:20-28	66

14 課 エルサレム会議 15:1-35	68
A 会議の背景 15:1-5	68
B 会議 15:6-21	68
C 諸教会への書状 15:22-35	70
15 課 パウロの第二回宣教旅行 15:36-18:22	72
A 小アジア再訪 15:36-16:5	72
B ピリピでの働き 16:6-40	74
C テサロニケでの働き 17:1-9	77
D ベレアでの働き 17:10-15	77
E アテネでの働き 17:16-34	78
F コリントでの働き 18:1-17	80
G アンティオキアへの帰還 18:18-22	83
16 課 パウロの第三回宣教旅行 18:23-21:16	84
A 第三回宣教旅行の開始とアポロの働き 18:23-28	84
B エペソでの働き (I) 19:1-12	84
C エペソでの働き (II) 19:13-40	86
D エペソからマケドニア、トロアスへ 20:1-12	88
E トロアスからミレトスへ 20:13-16	88
F ミレトスでの告別説教 20:17-38	90
G ミレトスからエルサレムへ 21:1-16	93
17 課 エルサレムからローマへ 21:17-28:30	95
A エルサレムでの働き (I) 21:17-36	95
B エルサレムでの働き (II) 21:37-23:11	97
C カイサリアでの働き (I) 23:12-25:12	100
D カイサリアでの働き (II) 25:13-26:32	103
E ローマへの旅 27:1-28:16	106
F ローマでの働き 28:17-30	108
おわりに	110
巻末注	112
年表・地図	

さあ始めましょう

— 手引の使い方 —

この手引は、グループでの聖書研究や個人の学びと祈りのために作られました。

グループ聖研の場合の指針

1. 司会者

グループの中で司会者を決めましょう。司会者は、手引にそって質問をする人です。参加者の意見を引き出し、参加者同士が話し合えるよう励まします。また司会者は、どのような意見でもその是非を判断せず、聖書箇所解説や、意見の相違を解決する必要はありません。司会はできれば交代で行います。

2. 参加者

お互いの意見を尊重して、考えたことを率直に分かち合い、学んでいる聖書箇所から語り合しましょう。また、脱線をしないように気をつけましょう。

3. 学びの時間

グループの状況や必要に応じて調節してください。

4. 「考えよう」

各セクションの最後にある「考えよう」の質問は、状況に応じ、選んでお使いください。

5. 解釈の違い

解釈の違いがある場合は、教会の牧師・指導者の立場を尊重してください。

凡例

() この手引は「聖書 新改訳2017」に準拠しています。〔 〕は「新共同訳聖書」の表記で、新改訳聖書と大きく違う場合に記しています。聖書箇所略式表示は、新改訳聖書巻末の一覧に従っています。

例) イザヤ書 45 章 18 節 → イザ 45:18



この印がある場所は、巻末の地図で確認しましょう。

巻末注 右肩に数字の付いていることは、関連する聖書箇所が巻末に記されています(例:「初めから⁵」)。その聖書箇所は、より深く学びたい方のための参照箇所ですから、グループ聖研では開く必要はありません。

脚注 下線のあることは、各ページの下(脚注)で解説されている用語です(例:テオフィロ^a)。脚注にある聖書箇所は確認のためのもので、グループ聖研では開く必要はありません。

注) 質問のあとに、必要な注を記してあります。

コラム まとまった説明がされている用語です。

年表 時代背景を理解するために、参考にしてください。

コラムのテーマとページ

イスラエルと十二部族	9
バベルとペンテコステ	15
主	15
不思議とするし	18
分かち合う交わりとローマ帝国	31
パリサイ派	41
救い、救い主	62

家の教会	76
神を敬う異邦人	82
ユダヤ人と律法	89
ローマの平和と街道	92
旧約聖書統編	92
神殿警告碑	99
ローマ市民権	99
復活	105

はじめに

福音書の最後に描かれている弟子たちの姿は、決して力強いものではありませんでした。イエスがオリーブ山で捕らえられたとき、弟子たちはイエスを見捨てて逃げ出しました¹。イエスが処刑されると、彼らはイエスこそメシア(キリスト)であるという期待が裏切られて落胆し²、エルサレムでユダヤ人を恐れて戸を閉めて隠れていたのです³。

その弟子たちが、2ヶ月も経たないうちに、誰をも恐れず大胆に福音を語り始めます。それから、わずか30年で「世界中を騒がせてきた者たち」⁴と言われるまでに、地中海世界を福音で満たし、各地に教会を築き上げていきました。

「使徒の働き」には、そのような弟子たちの変化の理由と宣教の働き、また、指導者である使徒たちが語ったキリスト教の中心的な教え、そして使徒たちと教会が初めて直面したさまざまな問題とその解決への道筋が、生き生きと描かれています。

現代の私たちが何を信じて、どのように生き、そして、伝えるのか、どのような教会を築いていくのか、「使徒の働き」が語る信仰と教会の原点から学びましょう。

「神の国の福音」-「使徒の働き」を読む前に

聖書は救いを表すためにさまざまなことばを使っています。福音書では「神の国」ということばが多く使われていますが、「使徒の働き」においても、初めから⁵ 終わりまで⁶、書を通して使われていることばです。

「使徒の働き」を理解するために鍵となる「神の国」について、まず、確認しておきましょう。

1 神の国とメシア

「神の国」とは、「神が王として私たちの生活と社会を正しく治めてくださる」という意味のことばです。

人と世界は本来、大変美しく、神への賛美と人間相互の愛に満ちた、非常に良いものでした⁷。しかし、人の罪のゆえにその良い世界が歪んでしまいました。偶像崇拜、憎しみと戦争、貧富の差や環境破壊などはその結果です。

しかし神は、メシアを通して人と世界を正しく治め、それを本来の姿に回復し完成させる、つまり、メシアによって「神の国」を全地にもたらすと、旧約聖書で約束してくださいました。そして、イエスこそが、そのメシアであると宣言するのが新約聖書です。

注) ・マタイの福音書では「天の御国」ということばが多く使われていますが、「神の国」と同じ意味です。

・メシアはヘブル語で「油注がれた者」という意味です。王や祭司を任じる時に油を注いだことに由来しています。そのギリシア語訳が「キリスト」です。

2 神の国の広がりとは完成

ユダヤ人は、終わりの日に現れるメシアが、ローマ帝国という敵を武力によって破り、イスラエルを国家として再興し、世界を支配してくださると考えていました。しかし、真のメシアであるイエスは、そのような力ではなく、愛によって「神の国」を広げていきます。イエスは神を愛し、人を愛し、ついには、人のために十字架で命を捨てました。その後、復活し、天に昇られたイエスは、聖霊により、弟子たちを通して、「神の国」を広げておられます。

そして、再び来られる時に「神の国」を地上で⁸ 完成させていただきます。それは、神が最初に計画された、美しく良い世界が完成する時です。

注) 「万物が改まる」「新天新地」といった聖書の表現は、完成された神の国を指し、「御国を受け継ぐ」「世界の相続人となる」とは、私たちがその地に、肉体をもってよみがえることを指しています。

3 神の国と十字架

イエスが「神の国」を広げ、完成するためには、世界を歪めた人間の罪の問題、神のさばき、悪の力と悪魔の支配、そして、死そのものを、根本から、また、決定的に解決しなければなりません。イエスの死と復活は、そのすべてに完全な解決をもたらしました。そしてイエスは、天に昇り、神の右の座につき、世界全体を導き始めました。弟子たちに聖霊を遣わして、罪に打ち勝ちイエスのように生きることを可能にしてくださいました。十字架の死と復活によって、世界はまったく違う方向に歩み始めたのです。「神の国」の開始です。

4 神の国と十字架のつまずき

このように、イエスの十字架の死と復活こそが「神の国」の土台でしたが、ユダヤ人には理解できませんでした。ユダヤ人は、異教徒であるローマを打ち破るのがメシアであると考えたので、そのローマによって殺されたイエスは、メシアではあり得なかったのです。

イエスと共に歩み、その死と復活をあらかじめ告げられていた弟子たちでさえ、その意味を理解していませんでした。イエスこそメシアであるという期待は、その死によって消え去り、弟子たちは落胆します。復活の知らせを聞いても、彼らには、たわごととしか思えませんでした。これが、復活直後の弟子の姿です。そのため、イエスは弟子たちに「神の国」とご自身の死の意味について改めて教え、またご自身が確かによみがえられたことを示さなければならなかったのです。

1 課 イエスの証人となる備え 1:1-26

A 「使徒の働き」の著者 1:1-2

「使徒の働き」の著者であるルカは、イエスの行いと教えを書き記した「ルカの福音書」をテオフィロ^aに献呈しました⁹。パウロの宣教旅行に一時同伴したルカは、その後編として「使徒の働き」を記しました。

B イエスの復活から昇天まで 1:3-11

ルカは福音書の最後の部分で、イエスが天に上げられた日までを記しました¹⁰。それは使徒の働き1章と重なっています。

- 1 イエスは苦しみを受けた後、どれほどの期間、使徒たちに現れ、何を示し、何について語りましたか (1:3)。
- 2 なぜ、40日間も使徒たちに語り、示したのでしょうか。p.5 「4 神の国と十字架のつまずき」参照。
- 3 イエスは使徒たちにどのようなことを命じましたか (1:4-5)。それは何のためでしたか。父の約束^b、聖霊によるバプテスマ^c
- 4 使徒たちはどのような質問をし、イエスはどうか答えましたか (1:6-8)。
- 5 使徒たちの質問とイエスの答えは、「神の国」に関する理解の違いをどのように表していますか。p.4 「2 神の国の広がり」と完成」も読んで考えましょう。

^a テオフィロ：この人物が誰であるかは不明。

^b 父の約束：父なる神が聖霊（助け主（弁護者））を遣わすと約束したことを指す（ヨハ 14:16-17、26）。

^c 聖霊によるバプテスマ：聖霊を受けること。ヨハ 20:19-23 など。

- 6 イエスの証人となるために、聖霊による力が必要なのはなぜでしょうか（ヨハ 15:26）。
- 7 イスラエルの再興について質問した直後の使徒たちは、イエスに起こった出来事（1:9）をどのように感じたと思いますか。
- 8 昇天したイエスは何をしていますか（エペ 1:20-22）。神の右の座^a
- 9 白い衣を着た人は何を伝えましたか（1:10-11）。

まとめ

イエスは復活の後、使徒たちに現れて神の国について語り、ご自身が確かによみがえったことを示しました。その後、イエスは天に昇り、神の右の座に着かれました。そして、万物を保ちつつ、世界を治め、導いておられます。神の救いのご計画は、このイエスをご自身の霊により、使徒や弟子たちを通して、神の国を地の果てにまで広げることです。これから始まる使徒の働きは、その神の国が広がっていく記録です。

考えよう

私たちは「神の国」について正しく理解しているでしょうか。p.4-5の「神の国の福音」をもう一度読んで、新しく教えられたことや、理解が難しく感じたことなどについて、語り合しましょう。

祈り

神よ、私たちも「神の国」を正しく理解し、主イエスのよみがえりを確信できるように助けてください。

^a 神の右の座：神の権威と力が委ねられ、それを実行する立場を表す。イエスが全世界を治め、導いておられる主権者であることを示している。